

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

信州大学にダンゴムシの研究をしている森山徹さん^{もりやまとくさる}という先生がいらつしゃって、以前、雑誌「ケトル」で取材をしました。彼は過去一五年間で一万匹にもおよぶダンゴムシの研究をして、その結果「ダンゴムシにも心がある」というのです。

「1」ダンゴムシには右に曲がったあととは左、次は右というようにジグザグに歩く性質があるのですが、

X

同じ方向にばかり曲がり続ける個体がいるそうです。つまり「本能」を投げ出してしまうようなダンゴムシがいるわけです。

さらに、ダンゴムシを水に囲まれた島のようなところに置くと、二匹中、三匹ほどの確率で突如泳ぎだしたといえます。通常、ダンゴムシは水に入ると数十分で窒息してしまうにもかかわらずです。

これらの結果から、極限状況に置かれたダンゴムシは、本能ではない「隠れた活動部位」を働かせたと考えられる、つまり「心」があるのだそうです。

こんな話を聞いても、実生活に直接役立つわけではあり

ません。けれども、私はこれを聞いたとき、心の底からおもしろいと思いました。

さらに、アフリカの大陸で生まれてから、ベーリング海峡を越えてアメリカ大陸にまで渡っていった人類の大移動との類似も感じられます。ニュージーランドの先住民マオリは、タヒチなどから海を渡ってきたポリネシア人が起源だとされますが、その先に島があるかどうか定かでないのに海を渡っていく決断をした人と、泳ぐダンゴムシはどこかで共通しているのではないかと、そんな気持ちになります。

研究している先生には失礼ですが、一般の人には無駄かもしれないダンゴムシについての知識が、こうした知的冒険にさそってくれる楽しさ。うまくはいえませんが、それは役に立つか立たないかを越えたなにかです。

学者の人たちは、直接的に役立つかどうかということよりは、基本的には自分の興味関心に正直に、好きなことを、いつてしまえばマニアックに研究しています。だから役立つかどうかより、とりあえず新しいことを知って、それを説明したいのです。物理学者なら、世界のあらゆること、つまりこの世のものはどういう物質からできていて、

それらの関係がどうなっているかを、ひとつの大きな理論体系で説明したい。

でも、考えてみれば、冥王星^{めいおうせい}について知っていても暮らしが豊かになるわけではないし、どうして宇宙が生まれたのかがわかってても、私たちの日常生活はたぶん変わりません。けれども、それがわかったら、ものすごいですし、何よりもおもしろいと感じます。

ですから、もしかしたら社会の中では壮大な^{そうだい}「無駄な研究」が大量にされているかもしれません。そのうちのいくつかが、インターネットであったりGPS衛星であったり、iPS細胞であったり、世の中の役に立つものになる。ただ、それはた^cくさんの無駄があるからこそだともいえるわけです。

企画^{きかく}などの仕事の面においても、こういう無駄なことが背景にあるほど、深みがあったり、説得力があったりするものになる。結局、いろいろな人の仕事を見ていても、無駄な中からすごく本質的なことが生まれることが多いように感じます。

たとえば、企画を考えるとときにパソコンに向かってグー^{*}グルで検索^{けんさく}している人がいます。

ネットで情報を探すのはとても便利になりました。

Y 図書館に通う必要もなくなった。でも、検索結果^Yというのは誰が見ても同じものが出てきます。それを各人の視点で加工して企画やアイデアに昇華^{*しやうか}していくわけですが、そこに自分独自の情報を組み込めると、人と違^{ちが}う発想を生み出しやすい。

だから、みんなと同じ武器を持って戦うよりは、無駄なもの^Pをいっぱい持っている人のほうが最終的に戦力になるような気がします。

本屋に行くのは、基本的な^{*}スタンスとしては無駄なものに会いにくくというものです。この「無駄なものに会える幸せ」は、本屋の本質といってもいいくらいだと思います。

本屋の棚の前をうろろろするのは、膨大^{ぼうだい}な無駄な知識の世界に自分が浮遊^{ふゆう}しているような感じで、それは純粹^{じゆんすい}に楽しい。私が本屋好きであるのは、そういう知識の中で浮遊している自分が好きだからかもしれません。

SF作家のアイザック・アシモフが「人間は無駄な知識を得ることで快感を覚える唯一^{ゆいいつ}の動物である」といったように、無駄は人間の特権です。

あまり難しく考えなくても、ビジネスにしろ、人づきあ

いにしろ、検索で解答に一直線に行くより、寄り道していろいろなものに触れながら進んだほうが楽しくない？というのが私の考えです。これは「迂回性^{*うかいせい}のすすめ」と呼んでもいいでしょう。

そのように、無駄や迂回を楽しむための本屋が、もう少し評価されてもいいのではないのでしょうか。

無駄なものはないというと、どこか精神論めいていますし、役に立たないことが楽しいというとノスタルジーにひたっているように情緒^{*じょうちょ}めいて聞こえます。

【2】それよりも単純に無駄があつたほうが生活は豊かになって、その豊かさこそがむしろいいことを生み出すのではないかと思うのです。その意味で、無駄は無駄ではない。

世の中が忙^{いそが}しくなつて、ネットで直接的に欲しいものを得られるようになったこともあって、いまは必要かどうかかわからないもの^{*}がないがしろにされすぎている気がします。

基本的に、本は読むまで役に立つかどうかともわからない、不思議な商品です。タイトルや著者である程度はわかるけれども、読んでみたら見当違いである可能性もあるし、す

でに知っていることが書かれているかもしれません。

しかし、最近の本をつくる出版社の側も、ますますに必要な情報^のが載^のっています、というような本を出しすぎている。それは読者が求めているからという理由もあって、どちらが先というものでもありませんが、世の中全体が「役に立つ病」にかかっているのではないのでしょうか。

年収三〇〇万とか、投資^{*}で儲^{もち}かるとか、とにかく効能^{*うた}を謳^{うた}うような本が多いわけですけど、そういう種類の情報は、情報の中の Z 一部でしかありませんし、そんなに役立つ情報が溢^{あふ}れているなら、みんなが年収三〇〇万にならなければいけません。

情報は役立つものであって、本にはその役立つ情報が載^のっていないければならない。そう思われているふしがありますが、必ずしもそうではないことに気づくことが大切です。

(中略)

読んだ体験やそこで考えたことは、その人のその後の人生のどこでどう役立つかわかりません。もしかしたら人生の終わり、死ぬときになって、「ああ、そういうことだったのか」と気づくかもしれない。

もちろん、困ったことがあつたら本屋に駆け込んで役立つ情報を探すという対症療法*たいししょうりょうほうもあるけれど、買うつもりもなかった本は風邪薬*かぜぐすりというより漢方薬的で、少し遅れてじわじわ効いてくるものです。

本屋は、いますぐ役に立たないものの宝庫です。本屋を情報の場ととらえるのではなく、遊びの場としてとらえてみれば、学者の研究と同じで、その中であれやこれやと探すのは非常におもしろくて、贅沢*ぜいたくなことなのです。

（嶋浩一郎『なぜ本屋に行くとアイデアが生まれるのか』による）

【注】

*雑誌「ケトル」——最高の無駄がつまったワンテーマ雑誌。

*マニアック——あることに極端*きょくたんに熱中しているさま。

*グーグル——インターネットの情報検索サービス。

*昇華——物事が一段上の状態に高められること。

*スタンス——立場や態度。

*迂回——物を避けて遠回りすること。

*ノスタルジー——過ぎ去った過去をなつかしむ気持ち。

*情緒——事に触れて起こるさまざまな微妙な感情。

*ないがしろ——あるものをないかのように軽んじること。

*投資——利益のために多額の金銭を企業などに投入すること。

*謳う——明確に文章で表現・主張する。

*対症療法——物事の目の状況に応じた処理のしかた。

問一 — 線部 A 「ダンゴムシにも心がある」とあるが、その理由を説明している部分を本文中から四十二字で採し出し、とうらん 答欄に合うように、最初と最後の五字を答えなさい。

問二 空欄【 1 】【 2 】にあてはまることばを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア しかし イ たえば ウ なぜなら

問三 空欄

X

Y

Z

 にあてはまることばを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ごく イ まれに ウ わざわざ

問四 — 線部 B 「その先に島があるかどうか定かでないのに海を渡っていく決断をした人と、泳ぐダンゴムシはどこかで共通しているのではないか？」とあるが、どこが共通しているのか。筆者の考えとして最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人もダンゴムシも追い詰められると、本能にしたがって新たな生きる場所に希望を求めて行動をする点。
イ 人もダンゴムシも本能にしたがって環境を変えることはしないが、未知の海へと移動する冒険心はある点。
ウ 人もダンゴムシもこの先のことになるかわからないのに、本能を無視した危険な行動を取ってしまう点。
エ 人もダンゴムシもできるかできないかわからないのに、可能性を信じて行動すべきだと思ひ込んでしまう点。

問五 — 線部 C 「たくさんの無駄」とあるが、それはどのようなものか。ここでのいう無駄の意味を考えて答えなさい。

問六 — 線部 D 「みんなと同じ武器を持つて戦うよりは、無駄なものをいっぱい持っている人のほうが最終的に戦力になるような気がします」とあるが、なぜ「同じ武器」を持っている人が最終的に戦力にならないのか。「同じ武器」とは何かを明らかにして、説明しなさい。

問七 — 線部 E 「本屋を情報の場ととらえるのではなく、遊びの場としてとらえてみれば、学者の研究と同じで、その中であれやこれやと探するのは非常におもしろくて、贅沢なことなのです」とあるが、本屋を「遊びの場としてとらえ」た方が良いのはなぜか。「遊びの場」とはどのような場かをふくめて説明しなさい。